

【文献】

『コンヴィヴィアリティのための道具』イヴァン・イリイチ著、渡辺京二・渡辺梨佐訳

【担当箇所】

I. 二つの分水嶺 (21頁～35頁)

イヴァン・イリイチについて

1926-2002年 ウィーン生まれの思想家。ヴァチカン・グレゴリオ大学で神学と哲学を学ぶ。

カトリック司祭として活動。学校・病院制度に代表される産業社会への批判を展開。

著書に『脱学校の社会』『シャドウ・ワーク』『生きる希望』など。

はじめに

産業主義時代の終焉というテーマ

≡大量生産の限度なき成長 (pp15, 14)

機能の専門家と価値の制度化と権力の集中 (pp17, 12)

今日の社会を管理するうえでより魅力的 (pp13, 15)

↓

- ・ 気が付かぬうちに基本的な諸価値に破壊的な影響を及ぼす (pp13, 17)
- ・ 社会の成員が固有の能力を自由に行使することをできなくさせ、人々をたがいに切り離して人工的な殻に閉じこめ…… (pp15, 14)

脱産業主義的な均衡

≡脱産業主義時代に適合する替わりの生産様式

自然な規模と限界を認識することが必要 (pp17, 17)

→人々と道具と新しい共同体の間の三者関係をはっきりさせることが可能になる。

→現代の科学技術が管理する人々にではなく、政治的に相互に結び付いた個人に仕えるような社会：“自立共生的 (コンヴィヴィアル)” = 「節度ある楽しみ」

I. 二つの分水嶺

➤ 医療の歴史を例として—

◆ 第一の分水嶺 (1913年)

・ 医学の進歩によって定義された効果的な医療を要求することを覚えた。(pp21, 18)

・ 新しい知識がはっきり指定された問題の解決に適用されたし、科学的な測定手段が新しい効率を説明するのに用いられた (pp32, 110)

↓

・ 医師は治療者であることをやめて… (pp23, 111)、医師という専門職がますますその手段の適用の

独占を主張 (pp22, 18)

- ・ 全社会成員がますます医師に依存するように。(pp22, 111)
- ・ 健康維持は美德から一転して、科学の祭壇で専門的にとりおこなわれる儀式に (pp22, 111)
- ・ 専門化をいっそう推進することの限界効用が低下したとき… (pp31, 110) 第二の分水嶺は目前

↓

◆ 第二の分水嶺 (50 年代半ば)

- ・ 医療制度による独占が進行するにつれて増大した限界非効用が、大多数の人々にとって増大する苦痛の指標となったとき (pp31, 112) に第二の分水嶺は越えられた。
- ・ それまでの達成によって立証された進歩が、価値のサービスという形をとった社会まるごとの搾取に対する理論的根拠として用いられる。その価値は…自分で自分を有資格化する専門職エリートのひとつによって決定されたえず改訂される。(pp32, 113)
- ・ それ (医療) 自身で新しい種類の病気を作り出した：医原病 (pp23, 113)
 - 人々を不健康な都会と不快な仕事の中で生き続けさせるための費用が急騰 (pp24, 18)
 - サービスの価値が上昇するにつれて、人々が自ら世話することはほとんど不可能になった。(pp24, 114)
 - 富めるものは医原病に対していっそうの処置をほどこされ、貧しいものはただ医原病に苦しむだけ… (pp26, 11)
 - 「原住民がそれと共生して行くことを学んでいた疾病に薬を濫用し…その結果彼らは、現代医療も生得の免疫も伝統的な文化も対抗できないような新しい系統の病気」が発生。(pp26, 110)

⇒ Ex) 中国の事例：官僚制的な医療 (pp27, 17) の見直しから、“裸足の医者”

非専門化が、無限の進歩という傲慢なイデオロギーと、…伝統的な医師たちの圧力に抗して、もちこたえられるかどうかは今後みまもるべき課題。(pp28, 19)

✓ 医療の危機はその症候が表しているよりももっと深いレベルにあり、すべての産業主義的制度の今日の危機と合致している。(pp30, 12)：「他の産業主義的諸制度」(pp32, 17)

- ・ よりよい健康をますます供給すべく社会から支持され勧告されている専門家の複合体が発展した結果
- ・ 患者たちが自発的にこのおなしい実験のモルモットになったことの結果

→人々は自分が病気だと言明する権利を失ってしまった。

論点

- ・ 二つ目の分水嶺の見極め (イリイチも明言を避けている?)。節度あるポイントとは。
- ・ 「学びの危機」におきかえて考えてみたときに。
 - 「学びのナビゲーター」は「専門家」ではないよなあ…。
 - 「学ぶ主体」としての意識を持つこと? (例えば pp12, 113 の「普遍的教育」をイリイチはどのように捉えているのだろうか?)